

## ラジオ「福音の光」説教

### 「信仰生活の三脚台～喜べ・祈れ・感謝せよ～」

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことにおいて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」

(テサロニケ人への手紙第一 5 章 16～18 節)

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

◎ 冒頭のみ言葉により「神様が私たちに望んでおられることは何か」について教えられたい。それは「喜び・祈り・感謝する」ことで、救いに与ったキリスト者が神様の恵みに応答し、恵みに満ちた信仰生活を迎えるために大切なことです。広畑教会の初代牧師・大西きよ先生が 1974 年に召天されなさいましたが、教会員に対する遺言として語られたみ言葉です。教会員の方々はこのみ言葉を意義深く受け留められて歩んでおられることでしょう。ジョン・ウエスレーがキリスト者の完全について語っていますが、キリスト者の究極の姿は「いつも喜び、絶えず祈り、感謝する」事であると語っております。このみ言葉を愛唱聖句として暗記しておられる方もおられると思います。

最初は「常に喜ぶ」ことです。何を喜ぶのでしょうか？

第一に「主を喜ぶこと」です。「主を喜ぶことはあなたがたの力です」(ネヘミヤ 8:10)。イエス・キリスト様を喜ぶのです。私たちのために十字架にかかり、贖いの御業を完成して下さったのです。その恩寵により罪が赦され、救いに与っているからです。更に「あなたがたの名が天にしろされていることを喜びなさい」(ルカ 10:20)。様々な奇跡やしるしが起こることも素晴らしいことですが、それ以上に喜ばしいことは、私たちの名前が天国に記されていることです。イエス・キリストを信じ、洗礼を受け、罪を許され、天に国籍を持ち、神様の民の一人とされた喜びです。

次に「祈り、感謝する」事についてです。

使徒の働き 16 章には、パウロとシラスとがピリピの町で主イエス・キリストの福音を述べ伝えている時、一人の占いの霊につかれた女奴隷が救われたのです。その結果、その主人が儲ける手段を失ったことにより、パウロとシラスは訴えられ、獄中に囚われ一番奥に入れられ足かせをされたのです。

「真夜中ころ、パウロとシラスが賛美の歌を歌って神に祈っていたのです。他の囚人たちも同じ境遇の中での賛美と祈りに魅せられ、聞き入っていたのです。ですから大地震が起こって牢の戸が開き、囚人たちの鎖も外れてしまったにも関わらず囚人たちは誰一人逃げ出さなかったのです。

看守は囚人が逃げ出したと思い、責任を感じて自害しかけたのですが、パウロは「自

害してはいけない」と留めたのです。その時、パウロの前に「救われるためにどうすべきでしょうか」と叫ぶ看守に、パウロは「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」と語ったのです。その結果、看守は主イエス様を信じたのです。そればかりかパウロとシラスを家に招いて福音を聞き、家族全員が洗礼の恵みに与ったのです。その時、真夜中にかかわらず喜びに溢れたのです。こうしてピリピの教会が誕生したのです。ひとりの人が主イエス様を信じて救われることによって、その恵みは家族全員にも及ぶのです。このみことばによって生かされた人がどれほど多くおられることでしょうか。

また私たちは一人で祈ることも大切です。次いで大切なことは二人のものが心を合わせて祈り賛美することです。

私たちがクリスチャン生活を送るために大切な三脚台を土台として「いつも喜び、絶えず祈り、すべてのことについて感謝する生活をイエス・キリスト様に信頼して歩ませて戴きましょう。

「恒常喜悅不断祈禱万事感謝」